

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成28年度技術情報第9号(イチゴの炭疽病)について(送付)

イチゴの炭疽病について情報をとりまとめましたので送付します。親株での潜在感染が多く認められます。梅雨期にさらに感染する危険性が高まることが予想されますので、より一層の栽培管理の徹底と健全苗の確保に努めましょう。

平成28年度 技術情報第9号

1 農作物名 イチゴ(育苗期)

2 病害虫名 炭疽病 *Colletotrichum gloeosporioides*

3 潜在感染株調査(6月上旬採集)

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 多(親株の潜在感染)

4 情報の根拠

(1) 本年の親株での潜在感染ほ場率は82%(平成60%)で平成より高く、潜在感染株率は17.3%(平成13.9%)と平成並である(表1, 図2)。

(2) 雨よけ栽培に比べ露地栽培の方が潜在感染株率が高い(図1)。

(3) 育苗ほ場では発病株の発生は平成並みであるが、むこう1カ月の気象予報では平成より気温が高く、降水量が多いとされ、感染に好適な条件が予想されている。

5 防除上注意すべき事項

(1) 雨よけ、排水対策及び防風対策を徹底する。灌水はできるだけ水滴が小さくなる灌水チューブ等を用い、適正な水管理に努める。

(2) 古葉は潜在感染している場合が多いので、新葉展開後は降雨時を避けて摘葉する。

(3) 生育不良の親株や萎凋した苗は、早急に除去し、ほ場外で適切に処分する。

(4) 薬剤による予防散布は10~14日間隔で行い、株元を中心に十分量を散布する。発生が認められた場合は散布間隔を短縮する。

(5) 地床育苗では、ビニールマルチ等で降雨等による土のはね返りを防止する。

(6) 育苗ほ場周辺や育苗ベンチ下の除草を徹底する。

(7) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

6 調査方法

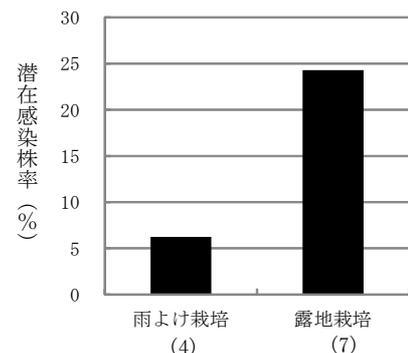
調査地点: 日置市, さつま町, 志布志市

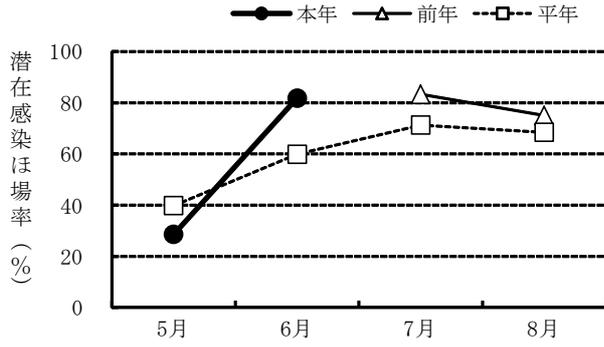
潜在感染調査: 1ほ場あたり20株の親株から下葉をそれぞれ1葉採集し、28℃のインキュベータで2週間保管した後、孢子塊の有無を調査した。

表1 イチゴ親株の炭疽病潜在感染状況(6月)

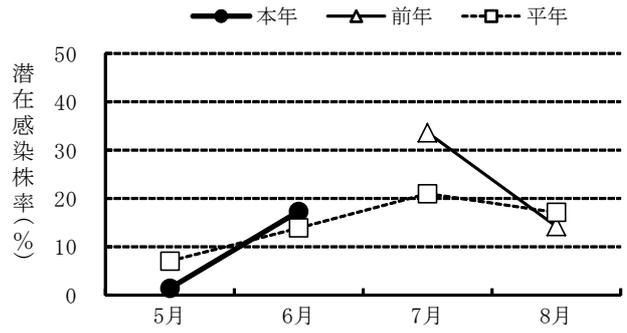
調査地点	採集日	調査ほ場数	(雨よけ栽培)	品種:ほ場数	潜在感染ほ場率(%)	潜在感染株率(%)
日置	6/6	3	3	さがほのか:3	67	5.0
さつま	6/7	4	1	さがほのか:2 さつまおとめ:2	100	15.0
志布志	6/7	4	0	さがほのか:4	75	28.8
平均					82	17.3
平成					60	13.9

注) 平成: 平成21~26年の平均値(平成27年は降雨により未調査)

図1 雨よけ有無別の潜在感染株率
注) ()の数値は調査ほ場数



潜在感染ほ場率 (イチゴ親株)



潜在感染株率 (イチゴ親株)

図2 イチゴ親株の炭疽病潜在感染の推移

注) 前年の5, 6月は降雨により未調査